



国民春闘共闘

第18号

2016年3月24日

国民春闘共闘委員会

〒113-8462 東京都文京区湯島 2-4-4 全労連会館
☎ 03-5842-5621 FAX 03-5842-5622

郵政ユニオン・ストライキ決行

賃金上げろ!均等待遇実現を! 郵政ユニオンが全国でスト決起!

郵政産業労働者ユニオンは、「月給 20,000 円、時給 200 円」以上の賃金引上げ、全国一律時給 1,200 円以上、非正規社員の均等待遇実現と正社員化、大幅な増員を要求の柱に2月10日から8回にわたって交渉を重ねてきました。しかし、3月17日の最終回答では、ベアゼロ、時給引き上げなし、そして、均等待遇に対して背を向ける回答が出されました。これを受け、郵政ユニオンでは「到底受け入れられない」とし、再回答を求め3月23日から24日にかけてストライキを決行、全国で23職場86人の仲間が立ち上がりました。

本社前でのストライキ突入集会に 200 人が参加



23日午前11時すぎより開始された日本郵政本社前集会で主催者あいさつに立った郵政ユニオン・日巻直映委員長は、「郵政は公共性の高い事業であり、国民の関心も高い。本集会は、会社の不誠実な回答に対する抗議と再回答を求める集会だ」とあいさつし、「今日と明日、すべての労働者の賃金引上げと均等待遇実現を目指してスト

ライキを決行する」と宣言。全国23職場で非正規社員を含む86人の仲間が立ち上がっていることを報告しました。

また、2月10日に春闘要求を提出した後の交渉について、正社員のベアはゼロ、時給の引き上げもなし、均等待遇に関しては経営が厳しいので不可能との回答であったことを報告。「多くの非正規社員がいる中で、時給1,200円は絶対に譲れない」と強調しました。

情勢に変化「いま頑張れば勝てる」

国民春闘共闘の井上久事務局長(全労連事務局長)は、一時金のわずかな上乗せでお茶を濁した日本郵政に対し抗議の意を示すと同時に、「この間の全国のたたかいを見て感じたことがある」とし、3つの特徴として①アベノミクスの破たん、賃上げが必須であること、②人手不足の中で経営者にも変化があらわれ、全国からの報告の中では23,000円など、5ケタの賃上げを獲得している状況が生まれていること、③戦争法廃止に向けた国民的共同のうねりが16春闘の大きな力になっていることを挙げました。「いま頑張れば勝てる情勢だ」と力を込め、戦争法廃止に向けてのたたかいでも、暮らしを守る課題でも大きな変化が生まれていることを強調しました。

つづいて、全労協、JAL 争議団、なのはなユニオンから連帯のあいさつがありました。



非正規社員が自ら立ち上がった春闘

郵政ユニオンの中村知明書記長は、ストライキ参加者が2012年の組織統一以降最大となり、さらに参加者の3分の1が非正規社員で、正真正銘の非正規春闘となったこと、また、女性職員の参加も多く、まさに男性・女性・正規・非正規の「総がかり春闘」となったことを報告。同時に、上部機関が指導するのではなく、支部が主体となってストライキを構えていることなど、今春闘での特徴を挙げました。

非正規社員の賃金問題を独自課題としてかかげ、24日にストライキを構えた千葉支部からは、「非正規社員の人たちが、自分たちで矛盾を解決しようと、ストライキを行うために組合に加入してきた」と、新しい局面を開いてきたことについて報告がありました。

23日は全国22職場でストライキを執行し、早朝から約1000人にのぼる仲間が支援に駆けつけました。



STOP暴走政治、戦争法廃止! 壊すな憲法
暮らしを守る共同で、賃上げと雇用の安定、地域活性化